

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会長
瀬戸口 淳氏

俳句

末吉俳句会（大川原峽にて）

滴りの次の滴り呼びにけり

児玉 典子

蜻蛉わくキツシュの旨きレストラン

本浦 玲子

億年の岩肌湿り岩煙草

宮路 生大子

大陽俳句会

秋の朝「九条守れ」の旗と立つ

福村 よう子

整ひし見事な書齋秋の宿

岩重 みどり

懐かしき昭和の唄や秋夜長

鍋山 美智子

短歌

末吉短歌会

宙に舞ふ翅をたくみにアキアカネ

何をつげむか我が頬のそば

大森 巳喜生

夕ごとの日課となりし水やりよ
ツクツクボウシもへたりてをりぬ

平田 美穂子

草を抜く背中を風が撫でて行く
葉月つごもり夕さりつかた

松元 ツル子

大陽短歌会

野の道に戻せと言うのか葛のつる
舗装道路を覆うがに延ぶ

竹内 娃子

思惑の大方は外れるものと知る現世
ハナ路を静かに生きる

広川 ミドリ

「無理するな」子等は言えども今日もまた
朝露ふみて時の草刈る

安藤 フヂ子

曾於やごろう短歌会

背を向けて辞しゆく人に深々と
お辞儀する人今や有り難し

小原 忠教

くるくると強いほうへと風見鶏
調子のいい人みたいじゃないの

桐原 久美子

財部短歌会

支えなき竹林ゆらす野辺の風
しずむ夕陽は吾がむね揺らす

井上 澄子

網焼きのサンマ試みブザーなる
「おう煙たいな」父のいた秋

坂元 淳子

萩の咲き連れる秋の日の
流るる雲は季節をのせつつ

脇丸 洋子

一人居の八帖にさす薄ら日は
高度下がりて夏季追はれゆく

大森 巳喜生

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

高齡で 運転免許も
返納しつ

浜田 一好

若こ見すち 厚化粧つけつ
婆は婆

桐野 奈世

高価金で 補聴器買ったが
棚上げつ

西留 辰子

スタイル
姿に 惚れつ結婚たが
今寸胴

胡摩ヶ野 べぶまつ

大雨心配 被害恐れ夢
疲れ倒けつ

高瀬 博多夜船